

ご自由にお取りください



独立行政法人 地域医療機能推進機構

JCHO大阪病院

No. 61

2025

Open Com

オープン・コム

特集

産婦人科

～新しい婦人科手術法と無痛分娩について～



JCHO大阪病院 理念

あしたのしせい+

より最適な医療と温かいところで、「あなた」と「地域」を支えます

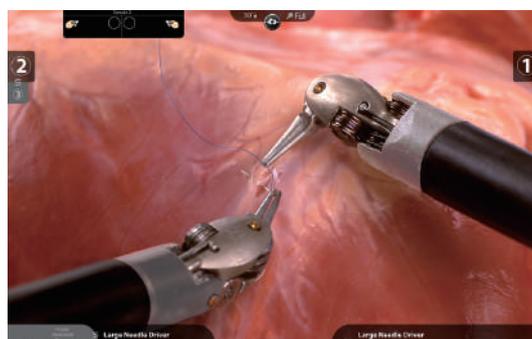
ロボット支援下腹腔鏡下手術について

当院は2023年12月に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、2024年2月1日からロボット支援下腹腔鏡下腔式子宮全摘術を実施しています。ロボット支援下手術とは、コンピューターの制御下で患者さんから少し離れたコンソールと呼ばれるコックピットのような場所から、遠隔操作により鉗子(ハサミやピンセットなど)を動かして行う手術のことです。

ロボット支援下手術は、従来の腹腔鏡下手術と同様、お腹に小さな穴を開けて行う手術です。手術を行う標的臓器(術野)を手ぶれの無い3Dカメラで立体的に見ることができ、あらゆる方向に曲がる鉗子を用いるため、一般の腹腔鏡下手術では困難な縫合操作などが容易になり、患者さんにはより低侵襲で、執刀医には優しい手術方法です。

手術は、腹腔鏡下手術のエキスパートである婦人科内視鏡技術認定医が担当し、婦人科腫瘍専門医が助手を務めます。ロボット手術を安全に実施できる症例を選択し、患者さんに負担の少ない手術を提供しています。ロボット支援下腹腔鏡手術の対象となる疾患は、主に子宮筋腫・子宮腺筋症などの良性腫瘍に対する子宮全摘術ですが、子宮体がん、骨盤性器脱(子宮脱)に対する手術も対象となります。

詳細につきましては、外来担当医にご相談ください！



v-NOTES（ブイノーツ：経腔的腹腔鏡手術）について

v-NOTES(ブイノーツ)とは、腔から腹腔鏡のカメラや鉗子などを挿入して行う婦人科の腹腔鏡手術です。Vaginal Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgeryの略で、腹部に傷がつかない低侵襲の手術です。

v-NOTES(ブイノーツ)では、お腹に傷をつけずに腔からアプローチします。子宮頸部の近くの腔壁を少し切って、お腹の中に腹腔鏡や器具を挿入して手術を行います。

海外では2012年頃より開始された手術であり、日本においても2020年頃より始まった比較的新しい手術方法です。

通常行われる腹腔鏡手術やロボット手術では、臍および腹部に4か所程度の小さな術創(2cm程度)が必要ですが、v-NOTESでは全く“きず”ができません。

子宮全摘術、卵巣・卵管といった付属器の良性疾患、骨盤臓器脱などに手術適応があり、当院でも徐々に対応可能な疾患を広げております。

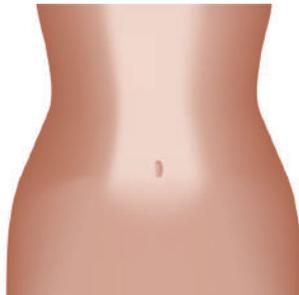
メリット

- ① 腹部に“きず”がないため、整容性(美容面)に優れています
- ② 腹部の“きず”の痛みがありません
- ③ 創部の感染の心配がありません
- ④ 入院期間が短く、社会復帰が早いです

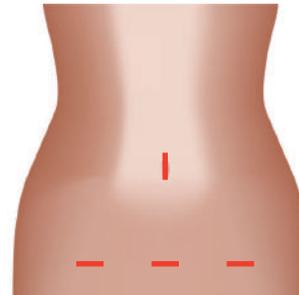
デメリット

手術適応となる方は腹腔鏡手術より限られます

大きな腫瘍、大きな子宮の場合、おなかの中の癒着が高度な場合は適応外になります。



v-NOTES 手術では腹部に傷がありません

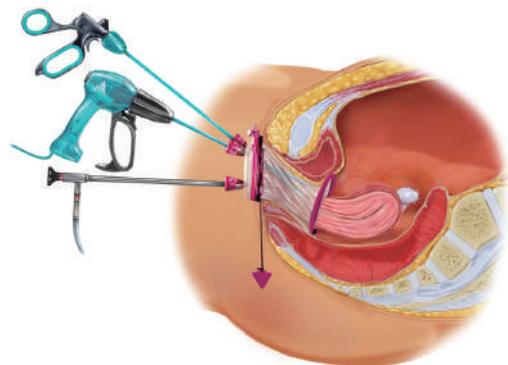


通常の腹腔鏡手術時の術創
(4か所程度の小さな傷が必要です)



GelPOINT© V-Path

この器具を腔に装着して、経腔的に手術を行います



v-NOTES 手術のイメージ図

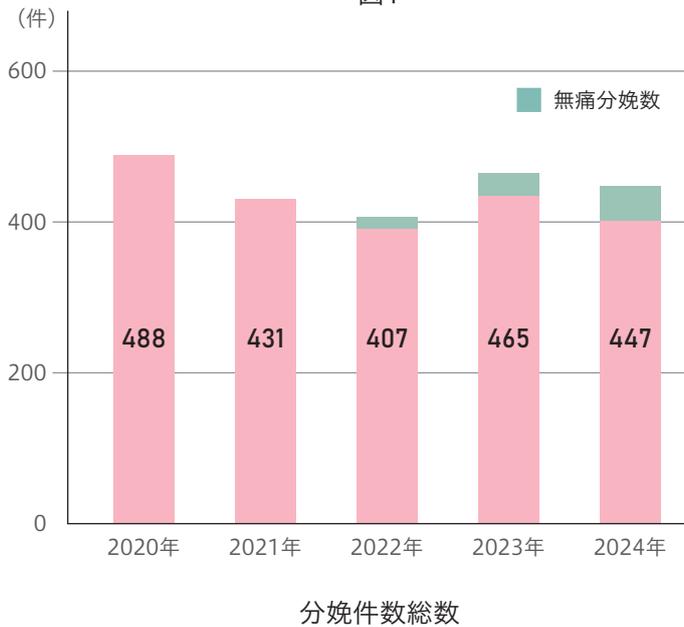
腔から手術器械を挿入し手術を行います



母子医療センター 無痛分娩のご案内

当院では2022年7月から無痛分娩や出生前遺伝カウンセリングを開始しています。また、2023年3月には産後ケアの受け入れも開始しました。さらに赤ちゃん・お母さんのお洋服 と4室お部屋をリニューアルしました。赤ちゃんのお洋服はユニセックスで、5種類用意しました。皆様に選ばれる施設を目指し、version upを目指します。

図1



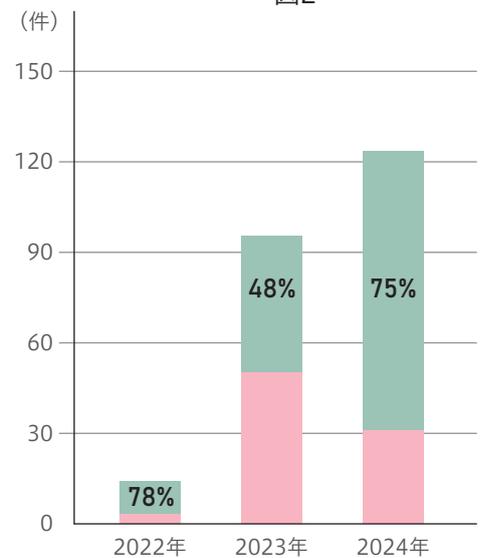
個室



2人部屋の1室

当院の無痛分娩は、現在“半”計画分娩です。頸管の熟化を考慮し、入院・誘発分娩を計画します。夜間*・土日祝日の対応は行っていませんが、平日日中は陣痛発来・破水でご入院された場合にも可能な限り無痛分娩を行っています(*日中に開始し、順調に分娩が進行している場合は継続します)。麻酔科医師により硬膜外チューブの留置を行い、分娩が進行し、陣痛の痛みがなくなってきたら鎮痛を開始します。24時間対応ではありませんが、無痛分娩を希望された方の75%に介入できています(図2)。誘発分娩や無痛分娩ならびに当院での方針について予め説明を行いますので、ご希望・検討されている方は、妊婦健診時にお申し出ください。

図2



■ 無痛分娩介入数*

*無痛分娩を開始したが経膈分娩できなかった件数を含みます

当院の無痛分娩スケジュール

1

妊婦健診時

無痛分娩申込

健診時に
お伝えください



2

妊娠35～37週

誘発・無痛分娩の説明

ご家族と一緒に
お越しください



3

妊娠38週以降

子宮口が開いてきたら、

入院予定日を決定*

*平日日中は、陣痛発来・破水で
ご入院された場合にも、可能な限り
無痛分娩を行っています。



4

入院日

採血

子宮口の拡張



5

入院2日目

陣痛誘発
硬膜外チューブ
留置



6

無痛分娩

分娩が進み痛くなったら

無痛分娩開始！



産婦人科の特徴

産婦人科は、産科から婦人科まで診療内容の幅が広い診療科ですが、当院では、全ての領域をカバーするように専門医が揃っています。

特に婦人科腫瘍専門医は3名在籍しており、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど、婦人科悪性腫瘍に対する治療を専門としています。

筒井は、大阪大学医学部付属病院で10年以上、婦人科がん診療に携わってきました。井上は、大分県のがん診療の中心的な役割を果たしている県立大分病院で産婦人科部長を永く勤めた後、がん治療のエキスパートとして当院に赴任しました。原は、生殖医療専門医であり、女性医学のエキスパートとして産科から婦人科まで診療の幅は広く、病院内職員の診療などでも活躍しています。清原は、大阪国際がんセンターでがん治療の研鑽を積んだベテラン女性医師です。繁田は、免疫学の専門家で、周産期専門医として産科診療、特に無痛分娩の管理を確立させただけでなく、婦人科腹腔鏡手術などにも精力的に取り組んでいます。服部は、京都大学で婦人科腫瘍の研究で学位を取得した腫瘍の専門家ですが、現在は産科から婦人科まで幅広く診療に取り組んでおり、出生前遺伝学的検査のカウンセリングにも携わっています。2025年4月以降は、新たに3名のスタッフが加わる予定です。

当院では、高度生殖補助医療(体外受精胚移植・顕微受精)は実施できませんが、この治療をご希望の患者さんには、地域の不妊治療専門医療施設と連携しご紹介しておりますので、ご相談下さい。

診療体制 (2025年4月)

筒井 建紀(診療部長)
婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、
内視鏡(腹腔鏡)技術認定医

井上 貴史(担当部長(婦人科))
婦人科腫瘍専門医

原 知史(担当部長(産科))
生殖医療専門医

清原 裕美子(医長)
婦人科腫瘍専門医

竹田 満寿美(医長)
婦人科腫瘍専門医
内視鏡(腹腔鏡)技術認定医

繁田 直哉(医長)
周産期(母体・胎児)専門医

服部 稔恵(医長)

小泉 舞 (医師)

瀧山 真帆(医師)

是常 有香(レジデント)

花田 佳奈(レジデント)



2025年度から開始する産婦人科の新たな治療技術

当院に新しく炭酸ガスレーザー治療装置が購入される予定です。子宮頸部異形成の患者さんでレーザー治療をご希望の方は、これまでは他院へ紹介させていただいていましたが、今後は当院で治療を受けていただけるようになります。詳細につきましては、外来担当医にお尋ねください。

寒波が到来し、雪が舞う2月8日(土)にホテル阪神大阪にて、後方連携でお世話になっている医療機関の皆様をお招きし、地域医療連絡会を開催致しました。



今回のテーマは「Advance care planning (ACP)」。人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインや、緩和ケアチームが意思決定支援に介入した症例などについて、医療法人優幸会 中村クリニックの中村幸生理事長と、清水雅子(もとこ)緩和ケア・ペインクリニック科担当部長が講演しました。



講演会の最後には、西田俊朗院長より、ご挨拶と「JCHO大阪病院 地域医療連携ネットワークシステム(大阪病院ネット)」についての案内を致しました。

このシステムは連携登録医の先生方がWEB予約および同意を得た患者さんの診療記録を、インターネットを利用し、閲覧出来るというものです。これにより、診療予約・検査予約をリアルタイムで取得頂けます。また、患者さんの検査・処方・画像などの診療記録を閲覧することができ、正確に治療経過を把握することが可能となります。

ホームページにてお申し込み方法をご案内しております。

https://osaka.jcho.go.jp/newera/iryokankeinominasama2020/community_medical_cooperation_system/
医療連携先の皆様のご参加をお待ちしております。



スタッフ一同、
これからも笑顔で
頑張ってます。

ご寄附のお願い

当院では、患者さんに高度で安全な医療を提供するために、療養環境の定期的な改善や高額医療機器の更新整備を行っています。そのための資金援助として企業や個人の皆様より広く寄附金を受け付けています。

コロナ禍であった令和2年度から令和5年度までに多くの方からご寄附いただき、下記の医療機器の整備を行うことができました。ご寄附いただき誠にありがとうございます。引き続き、患者さんへ質の高い安全な医療の提供に尽力いたしますので、ご支援のほどお願いいたします。

ご寄附により整備した医療機器例



移動型外科用X線透視装置

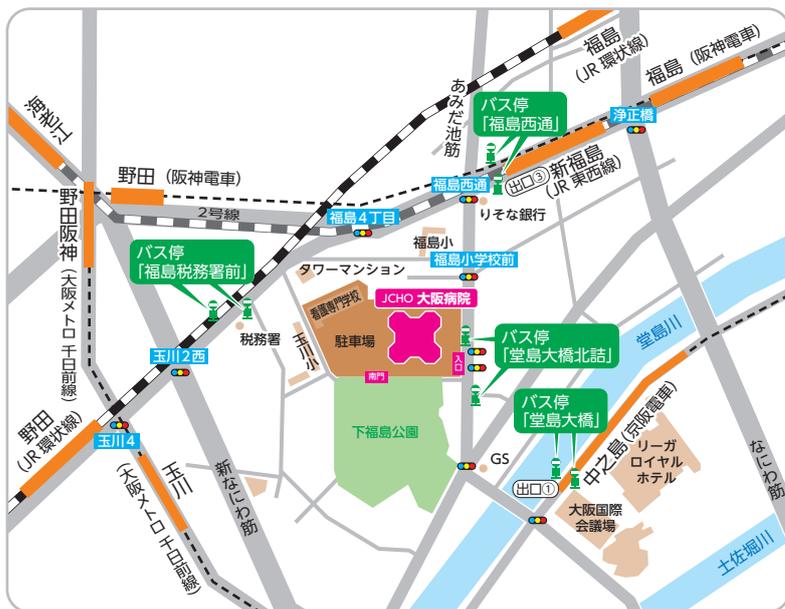


振動ヘッド付空気圧式マッサージ器



気道管理トレーナー

アクセス



- JR 東西線**
「新福島駅」下車徒歩 5 分
出口 1 にはエレベーター、出口 2 にはエスカレーターがございます
※当院に一番近い出口 3 には階段しかございません
- 京阪電車**
「中之島駅」下車徒歩 5 分
- JR 環状線**
「福島駅」下車徒歩 10 分
- 阪神電車**
「福島駅」下車徒歩 10 分、「野田駅」徒歩 15 分
- 地下鉄**
「千日前線玉川駅」下車徒歩 10 分
- 市バス**
「大阪駅前」鶴町四丁目 [55] 方面 「堂島大橋北詰」下車 すぐ
「大阪駅前」西島車庫前 [56] 方面 「福島西通」下車 徒歩 5 分
「大阪駅前」西島車庫前 [56] 方面 「大阪福島税務署」下車 徒歩 5 分
「大阪駅前」船津橋 [53] 方面 「堂島大橋」下車 徒歩 5 分
- タクシー**
「大阪駅」より約 10 分



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構認定病院 / 大阪府がん診療拠点病院

JCHO (ジェイコー) 大阪病院 信頼に応える医療

独立行政法人地域医療機能推進機構

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78

TEL(06)6441-5451(代表) FAX(06)6445-8900

<https://osaka.jcho.go.jp/> この広報誌に対するご意見・ご要望は、当院広報委員会宛まで

JCHO 大阪病院

検索

大阪府「男女いきいき・元氣宣言」登録事業者 / 「動きやすい病院」認定病院(第1号) / につけい子育て支援大賞受賞 / 女性のチャレンジ支援賞(内閣府)受賞

JCHO大阪病院SNSはこちら



LINE



Facebook



Instagram



広報誌バックナンバー



古くより四つ葉のクローバーは「見つけた人には幸運が訪れる」という言い伝えがあります。当院は患者さんや地域の皆様が幸せになるお手伝いができるよう四つ葉のクローバーの形を建物のモチーフにしております。

オープン・コム 61号 2025年4月発行
本誌の無断転載・複製は禁じます。